

車載器・業界横断型 車両動態管理プラットフォームに関する研究経緯

年度	テーマ・研究実績	WG 参加企業数
2018	WG05A「デジタコデータ・インタフェースの標準化」 複数社のデジタコからデータを抽出し、共通項目の洗い出し、フォーマット変換を行い、労働実態の把握、労務管理、分析が可能なことをプロトタイプシステムにより検証した。	11
2019	WG05A「複数GPS情報によるリアルタイム動態管理」 業務用GPS端末、準天頂衛星みちびき対応端末を車載し、各端末から収集したリアルタイムの位置情報を一画面上にプロットするシステムにより、測位精度の方式比較を行った。	24
2020	WG05（ものづくり補助金 ビジネスモデル構築型 採択事業） 「様々なデバイスに対応する位置情報管理プラットフォーム構築」 デジタコメーカーの参加社数を大幅に増やし、動態管理サービスベンダー各社にも協力を頂き、各社サービスからリアルタイムに車両走行データを収集、蓄積する「メーカー、ベンダーの垣根を越えて位置情報を収集するデータハブシステム」を構築した。システム構築後、事業者30社超の大規模実証実験とFit&Gapによるシステム改善を実施した。	40
2021	WG05 動態管理プラットフォームの社会実装と活用	53
2022		60

サービス実証実験例

一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会(TDBC)で行われた3年越しの研究と、52社以上の運送事業者間で行われたtraevoの実証実験結果をご覧ください。サプライチェーン全体の最適化が困難な状況において、業界横断型のtraevoは驚異的な削除効果を期待できます。

実験での削減効果

304時間/月

物流事業者の削減効果(20台運用)

1,416時間/月

荷主の削減効果

766万円/月

自動車メーカーの削減効果

- ・ TDBCによる「動態管理プラットフォーム社会実装検討ワーキンググループ」参加企業数：52社
(鈴与カーゴネット株式会社、トランコム株式会社、株式会社首都圏物流、山崎製パン株式会社、トヨタ自動車株式会社 など)
- ・ 国土交通省「総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）」
- ・ 数値は実証実験前後で比較算出した結果によるものです

事業会社（JV）設立



traevo

traⁿsportation & traⁿsformation + evo^lution

物流の割り勘仲間 急募!

ビジネスモデル
特許出願中



TDBCは車載器メーカーを横断して、自社・庸車問わず車両情報の一元管理ができる動態管理プラットフォームを提供します。

パートナー庸車の管理にお悩みの**運送事業者様**

配送車両の動態管理が必要と感じる**荷主企業様**

自社製品配送車両の一元管理が必要な**製造業様**

運送事業者の着荷遅延が多いと感じる**流通業様**

動態情報を活用したサービスを
提供していただける**サービス事業者様**



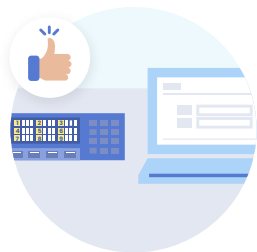
お問合せ・お申し込みは <https://unyu.jp/warikan>

rights Reserved.



トラック輸送**194万人**
本気の進化を考えます





追加機器なし

対応デジタコや動態管理サービスと連動



カンタン集約管理

関係車両のステータスを集約



申請するだけ

機器やサービスのIDを申請するのみ



500円（台/月）

低コストを実現

2022年4月 無料トライアル受付開始
～2022年末 16社トライアル実施 & 機能改善
2023年1月 正式サービスイン